第10回 6/20 「J-ロックで世界市場に挑戦」

和佐田 達彦（わさだ・たつひこ）先生　　バンド「爆風スランプ」「X.Y.Z.」ベース奏者

京都出身。
80年代初頭、京都の音楽シーンでは伝説となった“炎の変態ファンクバンド itachi”を結成。その勢いのまま上京。
名前を“TOPS”に変え更生の道へ。
その後“爆風スランプ”に加入して一躍日本全国のお茶の間に知れ渡る存在になるものの、99年活動休止。
同時にフリー宣言をして活動の場を広げ、ミュージシャンの他にインディーズレーベル代表、プロデューサー、イベント制作、音楽学校講師、ＤＪ、ビールの試飲等、興味のあることは何でもやり、マルチな才能を発揮中。
たいへんオモシロイ男である。

《講義概要》

バンド「爆風スランプ」のベーシストとして活躍し、その後も多方面から音楽産業に携わる和佐田達彦氏が、ミュージシャンという立場から、ロックを中心に音楽業界についての講義を行った。

講義は、事前に集まった学生からの質問と対話するように進められた。その中で、日本の音楽が欧米ではあまり認知されていないこと、またその要因が言葉の壁にあることを示し、世界における日本のロックの現状を伝えた。さらに、不況がエンタテインメントにどのような影響を与えているのか具体的に解説し、問題提起した。

さらに、エンタテインメントとは、人を「今いる場所から違う場所へ移動させる」ものだと定義し、舞台に立つ立場からエンタテインメントへの想いを示した。自身の経験から音楽業界の厳しさも伝え、それと同時に「人と人とのつながり」が何より大切な世界であることも強く訴えた。受講生は、和佐田氏の考えに心を動かされ、日頃の生活をも省みた。

《受講生の感想》

●ミュージシャンという立場としてお話をして頂いて、色んな事を知る事が出来たし本当に楽しかったです。そして、プロとアマチュアの境目が無いという事に関してもおどろきました。それを決めるのは周りの人間だという事も確かにそうだなと思いました。　　佛教大学・社会福祉学部・2 回生

●ご自身の経験からのお話でしたので、すごくリアルで熱の感じる講義でした。おもしろくお話されていましたが、その中でのお話から大変さ、厳しさが見えました。　　京都橘大学・文化政策学部・3 回生

●「ステージに立ったら必ずしようと心がけている事は、“ 今いる場所から違う場所へ ” です」と聞いてまさにエンタテインメントだなと思いました。
立命館大学・産業社会学部・1 回生

●チャリティーコンサートのお話、興味がわきました。無料で入退場できてもコンサート自体は 300 万だなんて、一体どこからそんな資金が…と思いました。私も音楽をしているのですが、音楽って難しいっていうのが強く伝わりました。
立命館大学・産業社会学部・1 回生

●和佐田先生のお話にあったように、日本のバンドの海外での認知度の低さには少し驚きました…。その最大の原因は言葉の壁ということですが、それは日本全体の課題だと私も感じます。逆から考えてみると、日本人は英語の意味がわからなくても洋楽を好んで聴きます。このような感覚で J-ロックを聴いてもらう環境に日本はまだないのでしょうか。
京都女子大学短期大学・2 回生

●どの仕事でも最後に “ 一番大切なのは人間性 ” とおっしゃっていたのが印象的でした。他の講師の方はスーツを着ているのに、和佐田さんはジャージで、講師との距離が近いような気がしたし、人間性で勝負しているように思えました。話も面白くて、聞いていてあきなかったです。
立命館大学・映像学部・2 回生

●素敵なお話ありがとうございました。人の悪口をいわないというのを肝に銘じます。また、エンタテインメントとは何かという問いにこたえられた「ディズニーが理想」というのもすごく共感できました。私にとってもライブは日常生活から切りはなされた夢の時間のように感じます。
立命館大学・産業社会学部・3 回生